

群馬県立県民健康科学大学 看護学部看護学科
2026年度 一般選抜 小論文試験問題 1

出題意図

小論文試験の主たる目的は、基礎学力、論理的な思考力・判断力・表現力・積極性や看護職を目指すものとしての必要な責任感や倫理観を評価することである。本問題では、「内閣府：令和6年版高齢社会白書（全体版）令和5年度 第1章高齢化の状況（第1節3）3 家族と世帯」から出題している。看護職者として、このような資料から社会情勢の変化を読み取り、理解する力は重要である。問1と問2は、グラフを正確に読み取り、記述できる基礎的な学力、表現力、判断力を評価する。問3により、自分の考えをニュースや自身の経験を踏まえて他者が理解できるような表現的、基礎的な学力、論述力、表現力を評価する。さらに、社会の変化に伴って生じる課題を的確にとらえ、解決しようとする責任感や倫理観、積極性、社会情勢に関するメディアの情報や自身の経験を踏まえて他者が理解できるような記述ができる表現力、論理的な思考力を問うものである。

【採点基準】満点 50 点

問1 10 点満点

- (1) 男女とも上昇が続いていることに加え、男女差が縮小していることや男性の割合の増加が著しいこと、男性と比較して女性の割合が一貫して高いことなど、具体的な変化が述べられている 10 点
- (2) 男女とも上昇が続いていることは述べられているが、パーセンテージ等が示されるのみで「どのように変化しているか」の記述が不十分である 5 点
- (3) 無回答または、男女とも上昇傾向であることが記述されていない 0 点

問2 15 点満点

- (1) 65 歳以上人口に占める一人暮らしの割合と人数がともに増加していることに加え、65 歳以上に占める一人暮らしの者の割合の増加よりも、人数の増加が著しいこと、または高齢化の進展が人数の増加に影響しているとの考察を示すなど、「割合の変化と人数の変化を関連づけて」述べられている 15 点
- (2) 65 歳以上人口に占める一人暮らしの割合と人数がともに増加していることは述べられているが、割合と人数の関連付けがやや不明瞭である 10 点
- (3) 65 歳以上人口に占める一人暮らしの割合と人数がともに増加していることは述べられているが、割合と人数の関連が不明瞭である 5 点
- (4) 無回答または、割合と人数の増加傾向についても記述がないか不明瞭である 0 点

問3 25 点満点

- (1) 一人暮らしの高齢者が安心して暮らすために自身ができる事を、
新聞やテレビ等で得た情報や自身の経験を踏まえて、明瞭に記述できている 25 点
- (2) 一人暮らしの高齢者が安心して暮らすために自身ができる事を、
新聞やテレビ等で得た情報や自身の経験を踏まえて、概ね明瞭に記述できている 18 点
- (3) 一人暮らしの高齢者が安心して暮らすために自身ができる事を、
新聞やテレビ等で得た情報や自身の経験を踏まえて一部明瞭に記述している 12 点
- (4) 一人暮らしの高齢者が安心して暮らすために自身ができる事を、
新聞やテレビ等で得た情報や自身の経験を踏まえて記述していない、

もしくは、自分の考えを記述していない	6 点
(5) 課題を理解していない、または解答していない	0 点

問 1～問 3 を通して

誤字脱字 1～2 か所・・・1 点

3 カ所以上・・・2 点

文字数をオーバーした場合は、0 点

【模範解答】

問 1

65 歳以上人口に占めるの一人暮らしの割合は男女とも一貫して増加しているが、昭和 55 年に 1 割前後だったその割合は令和 32 年までには 3 割近くまで増加し、特に男性の増加が顕著である。(89 文字)

問 2

65 歳以上人口に占める一人暮らしの者の割合は一貫して増加し、昭和 55 年から令和 32 年までに 1 割程度から 3 割弱に増加するが、その人数は 12 倍以上に増加する見込みであり、一人暮らしの者の割合よりも人数の増加が著しい。(107 字)

問 3

①一人暮らしの高齢者が安心して暮らすために、私は日常的な「声かけ」と「見守り」ができると思います。登下校時などに近所の一人暮らしの方と積極的に挨拶をし、ゴミ出しや重い荷物運びなど、ちょっとした困りごとを「手伝おうか」と声をかけることを習慣化したいです。ニュースで、地域とのつながりがなくて孤独感を感じたり、異変が発見されない高齢者がいることを知りました。挨拶や声かけを行い、一人暮らしの高齢者の孤独感を和らげたいです。また、高齢者の異常に気が付いた時は周囲の大人に相談するようにしたいです。(246 字)

②私は、離れて暮らす高齢者と家族の円滑なコミュニケーションを支援することで、安心な暮らしに貢献したいです。私の祖母は遠くに離れて住んでいるのですが、スマートフォン操作で苦労していることを聞きました。今度会いに行って、LINE やビデオ通話の使い方を教えてあげたいです。これにより、家族が毎日簡単に顔を見て安否確認ができるようになり、遠く離れていても「つながっている」という安心感を生むと考えます。また、地域のボランティア活動などに参加して、他の高齢者にもデジタル機器の操作を教える活動に参加したいと思います。(249 字)

③私の祖母は、公共交通機関があまりない地域で一人暮らしをしているが、近くにスーパーマーケットや郵便局がなく不便だと話しているのを聞いたことがある。祖母は高齢になり運転免許を返納したため、移動手段が減り、さらに買い物に困っているとのことだった。以前ニュースで、買い物に行くことが難しい高齢者にタクシーを安く手配できる制度があると聞いたことがある。そのような制度を調べ、その地域で受けられる支援を祖母に教えたい。また、ボランティア活動を通して、地域の一人暮らしの高齢者の外出支援にも協力してみたい。(246 字)

群馬県立県民健康科学大学 看護学部看護学科
2026年度 一般選抜 小論文試験問題2

【出題意図】

小論文試験の目的は、基礎学力、論理的な思考力・判断力・表現力を問うことである。受験生の多くは、これまでの日常生活や学校生活の中で様々な問題に直面しながらもそれを克服するために前向きに様々な挑戦を試み、その経験から多くのことを学んでいる。

そこで、新聞の記事に取り上げられたある男性のがん治療や治療中の経験を題材とし、記事の要約、男性の経験に類似する受験生の経験とその経験から得た学びを問うこととした。問1では、読解力と表現力、問2では、論理的な思考力・判断力・表現力を総合的に評価する。

【採点基準】50点満点

<問1> 14点満点

- (1) 記事に掲載されている福森さんの治療中の経験と現在の前向きな活動を正確かつ適切に要約している 14点
- (2) 記事に掲載されている福森さんの治療中の経験と現在の前向きな活動を4分の3程度正確かつ適切に要約している 11点
- (3) 記事に掲載されている福森さんの治療中の経験と現在の前向きな活動を半分程度正確かつ適切に記述している 7点
- (4) 記事に掲載されている福森さんの治療中の経験と現在の前向きな活動を一部正確かつ適切に記述している一部適切に記述している 4点
- (5) 理解困難な内容を記述している、または解答していない 0点

<問2> 36点満点

- (1) これまでに直面した問題、問題の克服に向けて前向きにトライしたことと、それを通して学んだことを論理的に記述している 36点
- (2) これまでに直面した問題、問題の克服に向けて前向きにトライしたことと、それを通して学んだことをおおよそ論理的に記述している 27点
- (3) これまでに直面した問題、問題の克服に向けて前向きにトライしたことと、それを通して学んだことを半分程度論理的に記述している 18点
- (4) これまでに直面した問題、問題の克服に向けて前向きにトライしたことと、それを通して学んだことを一部論理的に記述している 9点
- (5) 理解困難な内容を記述している、または解答していない 0点

問1、問2を通して

誤字・脱字 1～2か所・・・・・・ －1点
 3か所以上・・・・・・ －2点

文字数による減点はなし。

規定の文字数を超過した場合は0点とする。

【模範解答】

<問 1>

解答例①

福森さんは抗がん剤治療の副作用で苦しみながらも、始球式に向けて懸命にトレーニングを行った。また、最新の治療法にも挑戦し、SNS で自身の病状や思いを発信することで、病気への理解や支援の輪を広げようとしている。(100 字)

解答例②

福森さんは副作用と闘いながら始球式のために努力し、投球を成功させた。治すことを目指して最新治療にも挑み、SNS で情報発信を続けながら、病気への理解と支援の輪を広げようと前向きに行動している。(93 文字)

<問 2>

解答例①

高校 1 年のとき、人前で話すことへの苦手意識を克服するために、英語スピーチコンテストに挑戦しました。クラス代表に選ばれたときは不安でいっぱいでしたが、「自分を変えたい」という思いから前向きに引き受けました。発音や表現を磨くために、放課後に先生と練習を重ね、自宅でも録音を聞き返しながら何度も練習しました。本番では緊張しましたが、準備してきたことを出し切ることができ、大きな達成感を得ました。この経験を通して、苦手なことでも逃げずに向き合い、努力を積み重ねることで乗り越えられるという自信ができました。そして、挑戦することで新たな自分に出会えるという前向きな姿勢の大切さを学びました。(290 字)

解答例②

高校 2 年の文化祭で、私はクラス劇の脚本と演出を担当しました。初めての挑戦で進め方がわからず、意見がまとまらないクラスの状況に悩み、途中で諦めたくなったこともありましたが、それでも「せっかく任されたのだからやり遂げたい」と思い直し、自分から積極的にクラスメートに声をかけ、意見を取り入れながら脚本を何度も書き直しました。放課後の練習では、全員が前向きに取り組めるよう声をかけ、雰囲気づくりにも力を入れました。本番で劇が成功し、大きな拍手をもらえたときは、努力が報われたと感じました。この経験から、人と協力しながら前向きに取り組むことで困難を乗り越え、達成感と自信を得られることを学びました。(293 字)

解答例③

私は高校で陸上部に所属しており、長距離走に取り組んでいました。1 年生の冬、大会を目前にして足を痛め、練習に参加できない日々が続きました。思うように走れない悔しさと不安で気持ちが沈みましたが、「今できることをやろう」と気持ちを切り替え、体幹トレーニングやフォームの見直しに取り組みました。また、部員の練習を記録し、アドバイスを

を送るなど、チームの一員としてできることにも力を注ぎました。復帰後は以前より効率的な走りができるようになり、タイムも向上しました。この経験から、困難に直面しても前向きに工夫しながら努力を続けることが、成長につながると学びました。そして、仲間と支え合うことの大切さも実感しました。(300 字)